

学生生活満足度向上支援のための社会人基礎力のメタ認知と満足度に関する調査

A survey of relationship between metacognition about “Fundamental Competencies for Working Persons” and student life satisfaction

坂井 和貴*¹, 中平 勝子*¹, 北島 宗雄*¹

Kazuki SAKAI, Katsuko T. NAKAHIRA, Muneo KITAJIMA

*¹ 長岡技術科学大学,

*¹ Nagaoka University of Technology,

E-mail: s101032@stn.nagaokaut.ac.jp

あらまし: 本稿では、社会人基礎力を含む学生生活についての調査を行い、学生の自律性と生活環境における習慣との関係を分析することで学生のメタ的な能力と学生生活における満足度との関係を明らかにする。社会人基礎力を認識・実践している学生は日々の生活において高い満足感を得られていると考える。現状を把握することで、社会人基礎力の認識を促し、生活環境全体を含めた学生生活満足度向上支援のための方法を探る。

キーワード: 学生生活満足度, 社会人基礎力, メタ認知

1 はじめに

限りある学生生活を満足いくものにするには意義のあることである。学生は個人によって様々な生活環境の中で学校での勉強だけでなく、趣味や娯楽などの様々な活動を行いながら日々の生活を送っている。その中で満足感を得るには授業や研究のための時間や趣味などの時間を両立させるというワーク・ライフ・バランスを適度に保ちながら過ごすことが望ましい(OECD2012) [1]。そのためには自分で各活動に対する時間の配分を考え、実際に行動に移していくことが必要である。満足感を得るということは自分で何かの目標を設定し、それに向かって学習や行動を行い目標を達成するというプロセスが存在すると考えられる。自身で目標を設定し、それを達成するために実践できている学生は日々の生活において高い満足感を得られていると考えられる。

目標設定力、行動実行力の指標として経済産業省が提唱している社会人基礎力というものがある。社会人基礎力は社会に出るために学生のうちに身につけるべき能力とされており、「前に踏み出す力」・「考え抜く力」・「チームで働く力」の3つの力で構成されている。本稿では、社会人基礎力の3つの力のうち「前に踏み出す力」と「考え抜く力」の2つの力に着目する。そして「前に踏み出す力」を学生が実際に行動を起こすための力、「考え抜く力」を学生自身の目標設定のための力とし、それぞれに関する学生自身のメタ認知と普通の学生生活における時間の使い方を調査し、社会人基礎力の認

識と日々の生活における行動が生活満足度にどのような影響を及ぼしているか解明することを目的とする。

2 調査

質問紙を利用したアンケート形式で行った。回答者は国立大学の学生76名である。調査は2014年6月に実施。質問項目は徳野らの研究[2]で用いられている質問項目のうち一部を抜粋。また経済産業省が発行しているリファレンスブック[3]から一部を抜粋し、使用している。問1から問3までの3部構成で質問紙を作成し、質問項目については以下の表に示す。

3 結果と考察

社会人基礎力に関する質問18項目に対して自身についてどの程度身についていると感じるかを因子分析し、解釈可能な5因子を抽出した(表1参照)。それぞれの因子について「忍耐」「行動実現」「思考」「柔軟性」「挑戦」とした。学生生活に関する質問18項目に対しても同様に因子分析し、8因子を抽出した(表2参照)。それぞれの因子について「授業」「交流」「通学・テレビ」「娯楽」「自主学习」「懇親」「クラブ・サークル」「新聞」「その他」とした。

満足度の高い学生と低い学生を比較すると、社会人基礎力に関して因子4の「柔軟性」に特徴がみられた。満足度が高い学生は「柔軟性」の因子得点が低い学生に比べて高い数値であることが分かった。また、学生生活に関する因子得点にばらつきが少なく多くの活動をバランスよく行っている。「柔軟性」を持つ学生は勉強や

表1 社会人基礎力の因子分析の結果

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	
【因子1】 忍耐						
9	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる	0.778	0.212	0.062	0.033	0.290
7	小さな成果に喜びを感じ目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる	0.710	0.164	0.246	0.181	-0.082
18	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している	0.605	0.014	0.218	0.370	0.184
12	課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めている	0.307	-0.051	0.187	0.243	0.176
【因子2】 行動実現						
1	自分がやるべきことは何かを見極め自発的に取り組むことができる	0.136	0.701	0.323	0.109	-0.097
2	自分の弱み、強みを把握し困難なことでも自信を持って取り組むことができる	0.391	0.665	0.222	0.008	0.261
3	自分なりに判断し他者に流されず行動できる	0.006	0.571	-0.076	0.097	0.115
5	状況に応じて効果的な手段を活用することができる	0.043	0.539	0.451	0.371	-0.014
4	相手を納得させるために協力することの必然性、理由など、を伝えることができる	0.172	0.341	0.263	0.350	0.208
【因子3】 思考						
14	常に計画と進捗状況の違いに留意することができる	0.209	0.005	0.814	0.074	0.138
10	成果のイメージを明確にし実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる	0.402	0.323	0.515	0.218	-0.108
11	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる	0.245	0.362	0.442	0.376	0.008
15	進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に計画を修正できる	0.202	0.171	0.437	0.319	0.065
13	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ実現性の高い計画を立てられる	0.060	0.278	0.390	-0.044	0.299
【因子4】 柔軟性						
17	従来の常識や発想を転換し新しいものや解決策を作り出すことができる	0.190	0.146	0.068	0.957	0.134
6	周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている	0.351	0.297	0.282	0.423	0.105
【因子5】 挑戦						
8	失敗を恐れずとにかくやってみようとする果敢さを持って取り組むことができる	0.118	0.082	0.078	0.140	0.866
16	複数のもの（もの、技術など）を組み合わせて新しいものを作り出すことができる	0.279	0.102	0.068	0.329	0.382

表2 大学生生活の因子分析結果

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	
【因子1】 授業									
13	勉強のためにパソコンやスマホを利用する	0.802	0.133	0.284	0.037	-0.021	0.016	0.085	-0.137
14	勉強のための本を読む	0.745	0.127	-0.089	0.067	0.228	0.169	-0.027	0.056
12	授業に関する勉強をする	0.621	0.011	-0.095	-0.230	-0.039	0.048	0.245	0.514
11	学校で授業や実験に参加する	0.349	0.119	0.152	-0.216	0.064	0.086	0.125	0.211
【因子2】 交流									
17	家庭教師や塾のアルバイトをする	0.033	0.767	-0.135	-0.054	0.053	-0.155	0.050	0.054
5	SNSを利用する	0.198	0.676	0.120	0.093	0.100	-0.037	0.030	0.035
7	友達と交流する	0.403	0.444	0.268	0.108	-0.057	0.421	0.039	-0.114
【因子3】 通学・テレビ									
3	テレビを見る	0.106	0.205	0.670	-0.026	-0.104	0.059	-0.087	-0.082
10	通学にかかる時間	-0.006	-0.264	0.604	-0.105	0.122	-0.054	-0.035	0.168
【因子4】 娯楽									
2	漫画や雑誌を読む	-0.012	-0.009	-0.007	0.725	-0.038	0.018	0.184	-0.083
6	娯楽のための本を読む	-0.134	0.133	-0.222	0.596	0.138	0.000	-0.306	0.167
4	娯楽のためにパソコンやスマホを利用する	0.304	0.041	0.428	0.467	-0.086	-0.021	-0.041	-0.146
【因子5】 自主学習									
15	授業とは関係のない勉強を自主的に取り組む	0.135	0.176	-0.044	-0.020	0.939	0.075	0.041	-0.233
【因子6】 懇親									
9	飲み会や懇親会などに参加する	0.030	-0.106	-0.057	-0.045	-0.007	0.622	0.137	-0.053
8	留学生と交流したり、自主的に語学を勉強したりする	0.286	-0.071	0.108	0.079	0.340	0.521	0.027	0.194
【因子7】 クラブ・サークル									
16	クラブ、サークル活動をする	0.122	0.103	-0.132	0.050	0.049	0.192	0.769	-0.096
【因子8】 新聞									
1	新聞を読む	-0.010	-0.207	-0.010	-0.046	-0.122	-0.113	-0.028	0.316
【その他】									
18	家庭教師や塾以外のアルバイトをする	-0.021	-0.100	-0.013	-0.019	0.033	-0.040	0.072	-0.412

娯楽などの様々な活動に臨機応変に対応できているために満足度が高いのではないかと考えられる。

4 まとめと課題

本稿では、社会人基礎力のメタ認知に関する質問紙を作成し、普段の生活習慣や生活満足度にどのような影響を与えているかを調査した。結果として普段の生活における時間の使い方に影響を与えていることが分かった。DRMのような質的調査と組み合わせることによって具体的な体験が「柔軟性」因子のメタ認知を支援するのか解明することが望まれる。

参考文献

- [1] OECD 編, "OECD 幸福度白書-より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較", 2012, 明石書店.
- [2] 徳野淳子, 田中洋一, 入澤学, 杉原一臣, 籠谷隆弘, 山川修, "大学連携における学生意識調査から得られた学生タイプに関する検討", 情報処理学会研究報告 Vol. 2014, No. 3, pp. 1-8(2014).
- [3] 経済産業省編, "今日から始める 社会人基礎力の育成と評価", 平成 20 年, 3 月.